

## 達磨の導引：『易筋経』『洗髓経』と三教交渉

横手 裕

21世紀に入り、中国政府は共産党成立八十周年大会等で伝統文化の精華を取り現代に役立てるべき方針を立て、中華民族の優秀な伝統文化である健身気功を群衆の強身健体に供することを体育工作の重要な課題とした。そして国家体育总局の健身気功管理中心が全国の気功教学に関する主要な教育研究機関に呼びかけて審議し、長い歴史をもち多くの人々に歓迎されている4つの功法を選んで普及をはかることとなった。この4つの功法は易筋経、五禽戯、六字訣、八段錦であり、あわせて中国4大気功などと呼ばれることもある。

このうちの易筋経は、「達磨易筋経」とも称され、禅宗の開祖である菩提達磨が嵩山少林寺に伝え、長らく仏僧たちの健身のために用いられてきたものとされる。方法としての易筋経を記すテキストが『易筋経』であるが、そこには仏僧の姿をした人物が諸動作を演じる図が多用されるなどで、実践しやすく、また親しみやすい内容となっている。しかし実際にはそれらは元来の仏教思想や修行法とはあまり関係がなく、大部分は道教系の導引法や内丹法の類と言ってよいものであった。また易筋経をさらに進めた高度な功法を記したものとして、達磨から『易筋経』とセットで伝えられたとされる『洗髓経』がある。こちらも表面的には仏教的なフレーズを多用するが、導引などにより心身を調整することによって長生がかなうとするなどで、むしろ道教的な雰囲気濃厚に帯びている。さらに朱子学的な理気論も思想のベースに置かれている。

本発表では、複雑な形成過程をたどる『易筋経』と『洗髓経』の歴史と内容を確認し、さらにこれらをめぐって交わされる人々の三教論を紹介しつつ、このような中国の健身養生文化における三教交渉について考えてみたいと思う。